

# CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会  
宣教ニュース

N.111 - 2018年3月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

今

年2018年を信仰のうちに歩みながらも、私たちの目は2019年に向けられています。2019年の10月、私たちは、教皇ベネディクト十五世の使徒的書簡「Maximum Illud マクシムム・イルド」の100周年を記念し、特別宣教月間を祝うこととなります。

教皇は、戦争直後の時代(1919年)を背景に、悲劇的な苦しみで満ちたその歴史上の時に、全教会の目を向けさせます。それは同時に、希望の時、すべての人にイエス・キリストを告げ知らせる絶好の時であると。私たちはキリスト教が生まれた最初の数世紀における「激しい迫害」の記憶から、現実を受けとめつつ、責任感をもって、福音の光に反対し受け入れない明らかなるこの時代に目を注ぐと、ベネディクト十五世教皇は述べます。

私たちの生きている時代との類似はあまりに明らかです。私たちは、教皇フランシスコがたびたび言うように「散発的第三次世界大戦」のただ中にあります。しかし、今は嘆いてばかりいる時ではありません。豊かに、惜しみなく、種蒔く時です。私たちサレジオ会員は「歴史の流れに沿って歩む」よう呼ばれています、困難に落胆するのではなく、良い知らせを告げながら、いつも喜んでいようと呼ばれています(サレジオ会会憲第19条、第17条参照)。

皆さん、良いミッションを!



J. Basanes

宣教顧問

ギジェルモ・バサニエス神父



## 熱意に満ちて「歩く」 宣教のプロジェクト・ヨーロッパ

# 「旅

人よ、道はない：道は歩くことで出来るのだ」。アントニオ・マチャドの詩、「Caminate」の一節です。私たちの人生、使命 mission が時に、地図のない旅であることをよく言い表しています。道は旅人を形作ります。「プロジェクト・ヨーロッパ」の冒険に乗り出した若いサレジオ会宣教師たちは、具体的な形で、「サンチアゴへの道」を共に歩むことでこのことを体験しました。

プロジェクト・ヨーロッパには、インド、ベトナム、東チモール、インドネシア、ペルー、ポーランド、コンゴ、ザンビア、ナイジェリア、グアテマラからの若いサレジオ会員が参加しています。彼らはフランス、ベルギー、オランダ、アイルランド、英国、ハンガリー、コソボ、オーストリア、ブルガリア、イタリアで働いています。宣教師たちは2月11日から18日にかけて、徒歩でサンチアゴ・デ・コンポステラへの巡礼を行いました。それぞれの管区で彼らを支える人々、また宣教部門のチームも巡礼に参加しました。

「この旅はヨーロッパにおける宣教のパラダイムのようなものでした。2月はガリシアの自然の中に行くのに易しい時期ではありません。寒さや風、雪、間断なく降る雨にさえも立ち向かわなくてはなりません。それは、ヨーロッパの世俗社会の無関心の中を歩んで行く福音宣教の寒さに耐える道のりを私たちに思い起こさせました。この歩みは、希望を垣間見させてくれるものでもありました。私たちは目的地・コンポステラに到達しました。旧大陸で働く38人の宣教師は共同体となりました。巡礼は私たちに力を与え、サレジオ会員として、宣教師としての選択において成長させてくれました。」

主に愛された者たちの一人、大聖ヤコブは、私たちの弟子・宣教師としての召命に新たな力を与え、福音的生き方の動機を清めてくれました。聖ヤコブは自らもそうしたように、「み名」のために殉教することさえ惜しまない心構えを持つよう、助けてくれました。

ヨーロッパで働く若い宣教師のための生涯養成プログラムは2年に一度行われています。その会合で、プロジェクトの進展状況について評価が行われ、課題が分析されます。ヨーロッパのさまざまな国でサレジオ会がたどる道は、いのちと希望の実を実際に結んでいます。

教皇聖ヨハネ・パウロ二世がああ有名な言葉を語ったのはこの場所(コンポステラ)でした。「私、ローマの司教、普遍教会の牧者は、いにしへのヨーロッパよ、あなたに向け、愛をこめて叫びます：自らを見いだしてください！ 自分自身でありなさい、自分の起源を再発見してください。自らの根を再生させてください。あなたの歴史を輝かしいものとし、あなたの存在を諸大陸における祝福とした、その真正な価値を生きることに立ち帰ってください。他の諸宗教への尊敬に満ちた雰囲気の中で、霊的一致を再建してください。あなたは今も、世界のため、文明のかがり火、進歩の励みとなることのできるのです。」

## ドン・ボスコのカリスマを伝える喜び



# 私

の宣教師としての召命は、サレジオ会員としての召命と同時に形成されたと思います。私はセビリヤのとても貧しい地区で育つという摂理に恵まれました。子どものころ、とても若いサレジオ会共同体が近所に引っ越してきました。それは第二バチカン公会議後の、人々の中に入って行く存在：組織は少なく、福音的生き方、サレジオの生き方をあかす、最も貧しい人々と連帯するという在り方でした。私や、隣近所の多くの子もたちの子ども時代、若者たちの生活は、オラトリオの雰囲気によって大きく変わりました。その雰囲気は私たちを魅了し、喜び、グループとして分かち合う生き方、イエスへの愛と他者への奉仕、特に最も貧しい人への奉仕に向かうよう私たちを形作りました。その共同体は、勉学を続けられるように私のような多くの子どもたちを助けました。そのサレジオ会員たちは、私に大きな影響を与えました、彼らと同じようになりたいと思うほどでした。養成の最初の段階から私の中にあつたアフリカに赴きたいという気持ちは、ごく自然に生まれました。

宣教師としての生活の中で、いくつかの挑戦に出会いました。そのうち二つを紹介します。最初の挑戦は病気でした。トーゴの宣教地でまさに一年目、マラリアの“洗礼”を受けたときは、もう少しで死ぬところでした。私は緊急移送されて救われました。このことで、海外宣教師の道はもう少しで断たれるところでした。二つ目の挑戦は、ブルキナファソの首都ワガドゥグーでの新たなサレジオ会の拠点です。子ども時代にサレジオ会員のうちに見ていた敬愛すべきものを、今度は自分が生きる番になったように思われました。経済的手段も、生活基盤もなく、自分たちの住まいさえなく……共同体のメンバーとして、もう一人の仲間がいるだけ。私たちの共同体と活動の土台は、路上での自然発生的なオラトリオ、家庭訪問、木陰の日曜日の祝いによって据えられました。そこでの2年間の生活と地域についての分析を経て、安定的な教育・司牧奉仕の計画を作り上げました。私たちの計画はシンプルで実際的なものでした。そこの素朴な子どもや若者たちのために全面的に向けられたものでした。

宣教師としての私の最高の喜びの一つは、疑いなく、ワガドゥグーで私たちの拠点を開いたことです。とても困難に満ちていましたが、それよりもはるかに大きな喜びがありました。言葉、行動、決定を通して自分たちが一つのカリスマを伝えているということがわかりました。ドン・ボスコの事業の礎を築いているということ。その上、第一次福音宣教が行われている地域で、福音に渴く人々の中で、キリスト教の存在が目に見える国で暮らし、働いているため、宣教師としての実感を強く感じることができました。

二つ目の喜び：マリで暮らした年月・目を見張られるその国を発見する6年間でした。マリはほとんどイスラム教でありながらほかの宗教、特にキリスト教に寛容です。サレジオ会の存在は非常に評価され、教会は大きな尊敬を受けています。多くの生徒や協働者たちは真に“望みによるキリスト者”で、彼らの存在はサレジオ会の活動に見事に統合されていました。私にとってそれは、諸宗教の共存に希望をもつ理由になっています。イスラム教が多数派の国々での教会、サレジオ会の働きには未来があるのです。

若者について、少し触れます。若者のために生きることは、サレジオ会員の人生をささげる価値があります。宣教精神をもって、喜びあふれる献身をもって、必要に応える開かれた心、最も貧しい若者への愛をもって人生を生きる時、それは私たちの全存在を満たすのです。

スペイン出身、ベニン(AFO)の宣教師 **アントニオ・エツレラ**



## サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ビエルルイジ・カメローニ** 神父



**福者アルベルト・マラヴェツリ** (1918 - 1946)、リミニのサレジオ会オラトリオの卒業生。今年の3月21日は福者の生誕100周年です。福者は、種を蒔くために土地を準備する、その仕方について思い起こさせます。主の霊の協力者たちは、家庭で、サレジオのオラトリオで、彼のためにそれをしました。彼の人生の歩みを世話し、人間として、キリスト者としての成長に心をかけました。私たち一人ひとりには大きな責任があります。それを果たすため、神を探求する者にふさわしい聖性の火花が、私たちの心にもなければなりません。私たちは共同体として、天の国のために働きます。



## サレジオ会の宣教の意向

ヨーロッパのサレジオ会員のために

**イエス・キリストを告げる第一次福音宣教がヨーロッパ大陸で行われ、サレジオ家族が、多文化、多宗教の環境で、聖霊の識別の賜物を生きることができるよう。**

ヨーロッパは、多文化、多宗教の大きなつぼです。キリスト者共同体は、相手を尊重する対話、そしてキリスト者としての霊的な豊かさを勇気をもって示すことを挑戦として投げかけられています。キリスト者共同体が、対話と告知知らせることのうちに、忠実に使命を果たすことができますように。

